大学院：教科教育専攻　教材研究の基礎理論(公民)

SDGs（持続可能な開発目標）について理解を深め、その教材化を試みる

社会科教育・経済学　松野尾　裕

１．授業概要

新型コロナウイルス感染拡大のため遠隔授業となった前期開講の標記科目（松野尾担当の 4 回）は、下記の課題を設定し、受講者は自宅で学習を進め、レポートを作成・提出することとした。

課題：SDGs とその実現のためのさまざまな取組みについて、国連広報センター、日本ユニセフ協会、国際協力機構等の WEB サイト等を利用して理解を深めたうえで、課題① SDGs とその推進の取組みについて簡潔に説明する。課題②小・中・高等学校での SDGs を主題とする授業を想定し、単元・目標を設定して授業 1 回分の指導案を作成する。

２．授業評価

受講者 5 名（M、O、S、W、Y）のレポート及び指導案の記述から、専門的知識の習得・理解、思考・判断・表現の深まりが見られた。

（1）課題①について

ミレニアム開発目標の反省として「平均値で進展を測る裏には取り残された人がいること…が浮き彫りとなった」(S さん)、SDGs は「〈地球上の誰一人とり残さない〉ことを誓っており、対象が国だけでなく、一人一人の人間に向かっている」(O さん)ことに着目しており、SDGs の根本が把握できている。取組み事例については、国単位では、日本の事例は全員が調べていた。さらに、M さんがインド、ペルー、ガイアナの取組みを、W さんがウェーデンの取組みを紹介した。地方自治体での取組みでは、O さんが宮城県東松島市と静岡市、Y さんが山口県宇部市、W さんが富山市の取組みを調べた。W さんは民間企業での取組みも調べた。身近なところの小さな取組みにも注意が払われており、W さんは「暮らしを見渡せば SDGs の観点はどこにでも転がっている。考えるきっかけを与えやすいのはやはり教育である。まずは教育こそ、公平で持続可能であることが、SDGs 推進になる」と的確にまとめている。

（2）課題②について

（1）M さんの指導案　中学校 3 年社会。単元：世界の国と SDGs。目標：インドのマディヤ・プラージュ州の栄養失調改善の取組みを事例に「本当の支援」について自分の考えをもつことができる。

（2）O さんの指導案　高等学校 1 年公民。単元：ジェンダー格差は私たちの眼にどう映るのか？。目標：ジェンダー意識に対して批判的、自覚的に捉え、社会を見る観点の一つとする。

（3）S さんの指導案　中学校 3 年社会。単元：持続可能な社会を目指して。目標：世界及び日本の視点から SDGs を見つめ、達成のためにどのように取組んでいくべきか、自分には何ができるのかを考える。

（4）W さんの指導案　小学校 4 年社会。単元：自然災害から人々を守るまちづくり。目標：地域の防災には様々な人々の協力が関わっていることを理解し、住民としての自覚を持ち、地域の防災の課題について主体的に解決しようとしている。

（5）Y さんの指導案　中学校 3 年社会。単元：未来の地球をともに考える。目標：よりよい社会を築くために解決すべき問題を捉え、それについての自分の考えを表現することができる。

上記の各指導案に対しコメントを付したうえで受講者間で共有した。

３．まとめ

本科目は DP との関係では「知識・理解」及び「思考・判断・表現」に対応するもので、遠隔授業でも一定の成果をあげることができた。しかし、指導案の作成等において授業時間外を含め受講者たちが自由に議論し、その内容を深めることは難しかった。その点を補うため、提出された指導案についての受講者相互による合評を、後期に対面授業で開講した「教材の開発と実践(公民)」において行った。